郷土史電脳紙芝居

新川物語

新川元橋から日本海を望む展望は絶景！

この橋がある辺りは松の木が生茂る
金蔵坂という小高い砂丘があり
開削工事の難所だった

あなたはご存知でしたか？
新川は200年前に
多くの人の手によって掘られた
人工の川だったということを。

- 何時
- 誰が
- 何のために
- どんな方法で

この川は
造られたのでしょう？

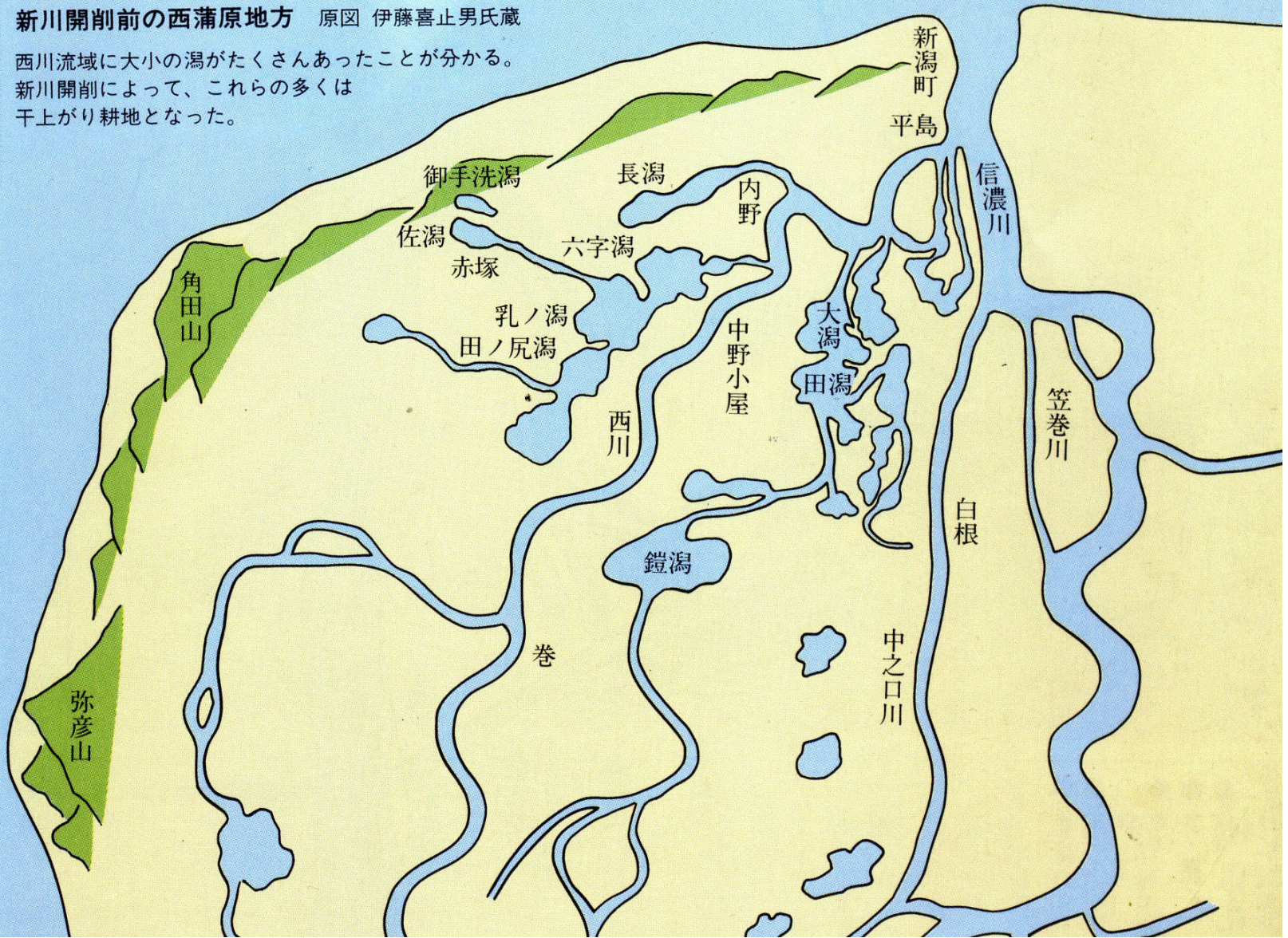
新潟における過去の水害

１６００年から１９５０年までの３５０年間で
９４回の大洪水の記録がある。
ほぼ、４年に一回大洪水に襲われてきた。
低い土地が広がる越後平野は
大洪水となると平野一面が海と化し
長い間浸水した水が引かなかった。

４年に一回の洪水の度に、農民は苦しみにあえいでいた。

新川開削前の西蒲原地方　原図 伊藤喜止男氏蔵

西川流域に大小の潟がたくさんあったことが分かる。
新川開削によって、これらの多くは
干上がり耕地となった。



三潟の悪水

鎧潟＋田潟＋大潟＝三潟

上流部で雨が降ると三潟の水は
行き場を失い、田んぼ一面
水浸し状態が続いた。
収穫の喜びは稀だった。
三潟地方は洪水と渇水の
二つの水害に悩まされた。

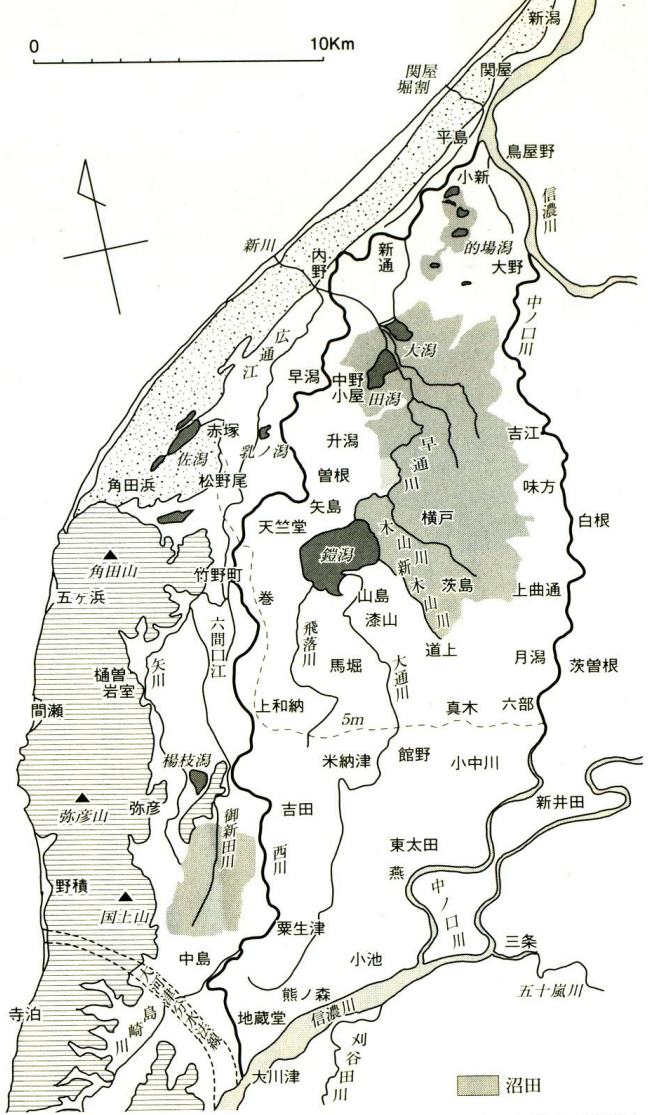


図12　西蒲原の概観　大日本帝国陸地測量部5万分1地形図「新潟」「内野」「弥彦」「三条」「新津」（明治44年測図）から作成

新川ができる前の西蒲原

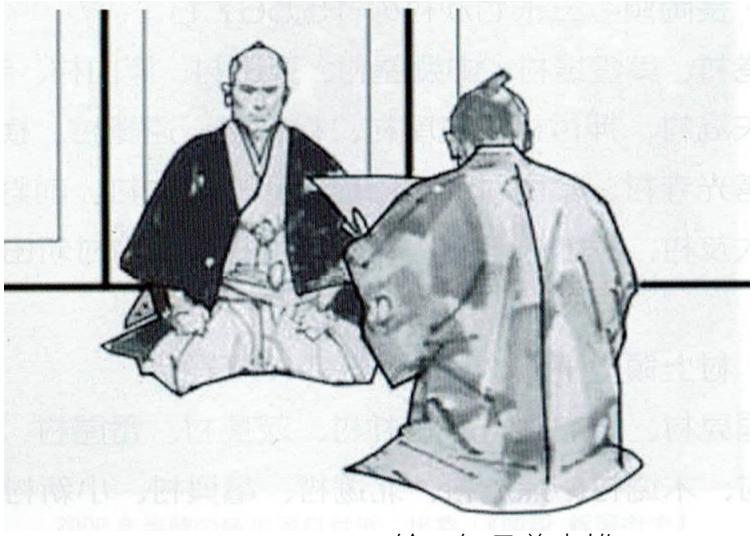
当時西蒲原は幕府直轄はじめ、長岡村上など、9藩もの領地で分割管理されていた。

9藩＝村上・長岡・峯岡・高崎・會津・新発田・桑名・興坂・旧幕

ひとたび豪雨ともなれば西川の水位は上昇し湿地帯であったこの一帯は悪水を排除できず一面泥の海と化し収穫の喜びは稀だった。

願い書の提出

伊藤五郎左衛門ら18人の願人は新潟藩に請願し
1815年（文化12年）年、仮取決書を交わす。



絵：細貝美喜雄

（１）工事費は長岡領が６割、村上領が４割を負担する。

（２）掘割は幅１０間（１８ｍ）、堤敷は両岸十間とし、掘割が通る七か村に相応の補償をする。

（３）幕領・新発田藩・池之端領・三根山領の関係者に呼びかけ人足や費用負担について交渉する。

（４）長岡領の願人が新潟港との交渉を行う。

（５）掘割完成後も早通川の流れに留意し、鎧潟周辺の村々に迷惑をかけない。

伊藤五郎左衛門を筆頭に長岡領願人16人の役録の譲渡・質入り額記録

願人		両	地区
中野小屋村割元	五郎左衛門	960	中野小屋
高山村庄屋	小市	386	中野小屋
大友村庄屋	多右衛門	222	中野小屋
明田村割元格	定治	200	中野小屋
槙尾村割元格	吉郎右衛門	200	中野小屋
前野村庄屋	今右衛門	200	中野小屋
笠木村庄屋	与兵衛	200	中野小屋
保古野木村庄屋	半左衛門	190	中野小屋
新通村上組庄屋	長右衛門	135	坂井輪
新通村中組庄屋	為右衛門	135	坂井輪
新通村下組庄屋	式右衛門	120	坂井輪
曽根村割元	清左衛門	300	西川
桑山村割元格	与惣兵衛	300	西川
五十嵐浜村上組庄屋	佐四郎	360	内野
五十嵐浜村割元格	九郎左衛門	115	内野
大潟村割元	仁兵衛	200	巻
計		4,223	

表9　長岡領願人16人の役録の譲渡・質入額
譲渡・質入れ年は文政元(1818)～4年　地区は新潟市との合併前の町村名　『新潟市史』通史編2から作成

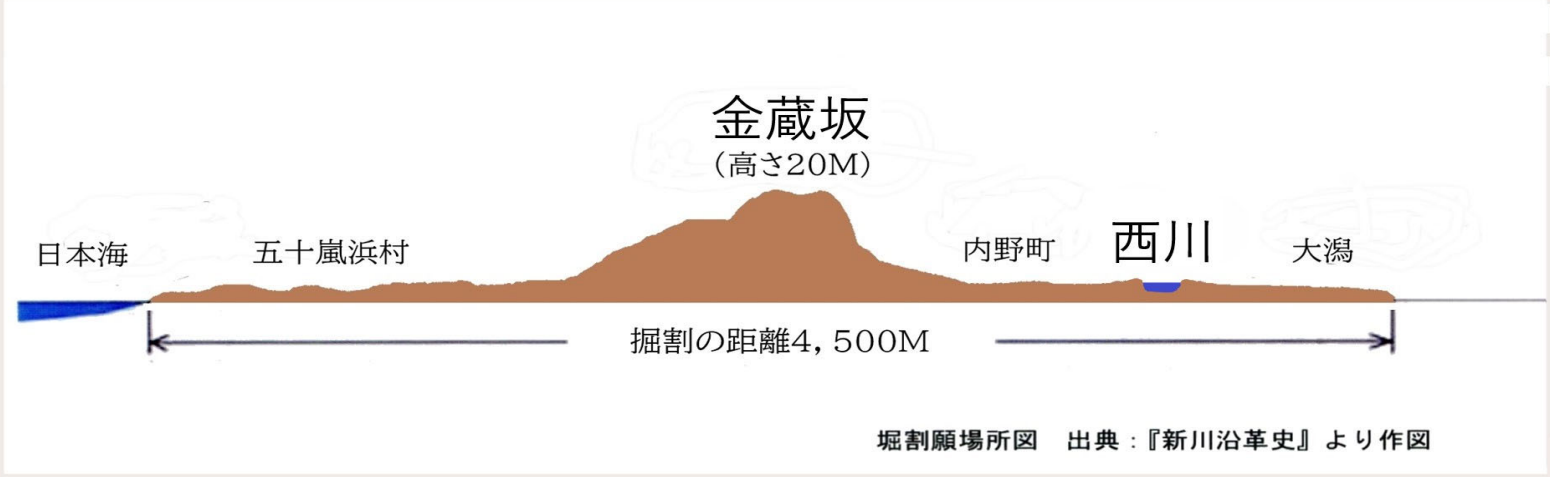
幕府 掘割掘削を許可

幕府は、長岡藩の伺い書を受けて文化14年長岡藩に掘割掘削の許可する。

長岡藩の工事開始命令により、工事は1818（文化15）年2月に開始。

最初に金蔵坂掘割計画が出された1737（元文2 ）年から数え、

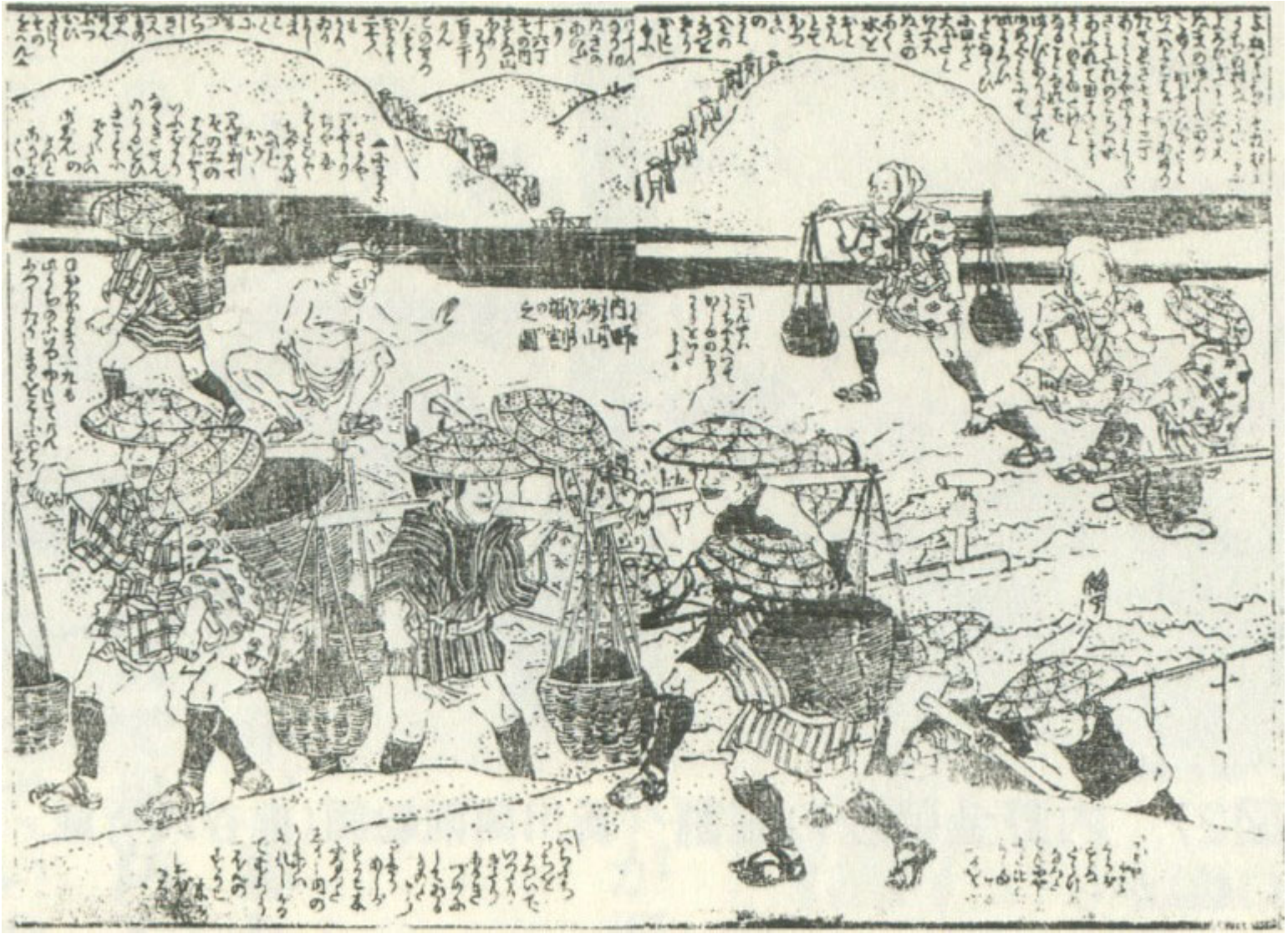
およそ80年後であった。（その間に開発願いが8回上程されたている）



堀割願場所図　出典：『新川沿革史』より作図

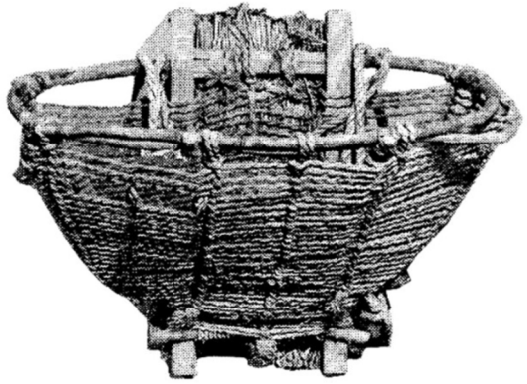
内野砂山掘割の図

十返舎一九「越後新潟道中膝栗毛」



金蔵坂工事現場・模型（新潟市歴史博物館）

小高い丘を切り崩し
さらに掘って掘ってまた掘って



普請かご

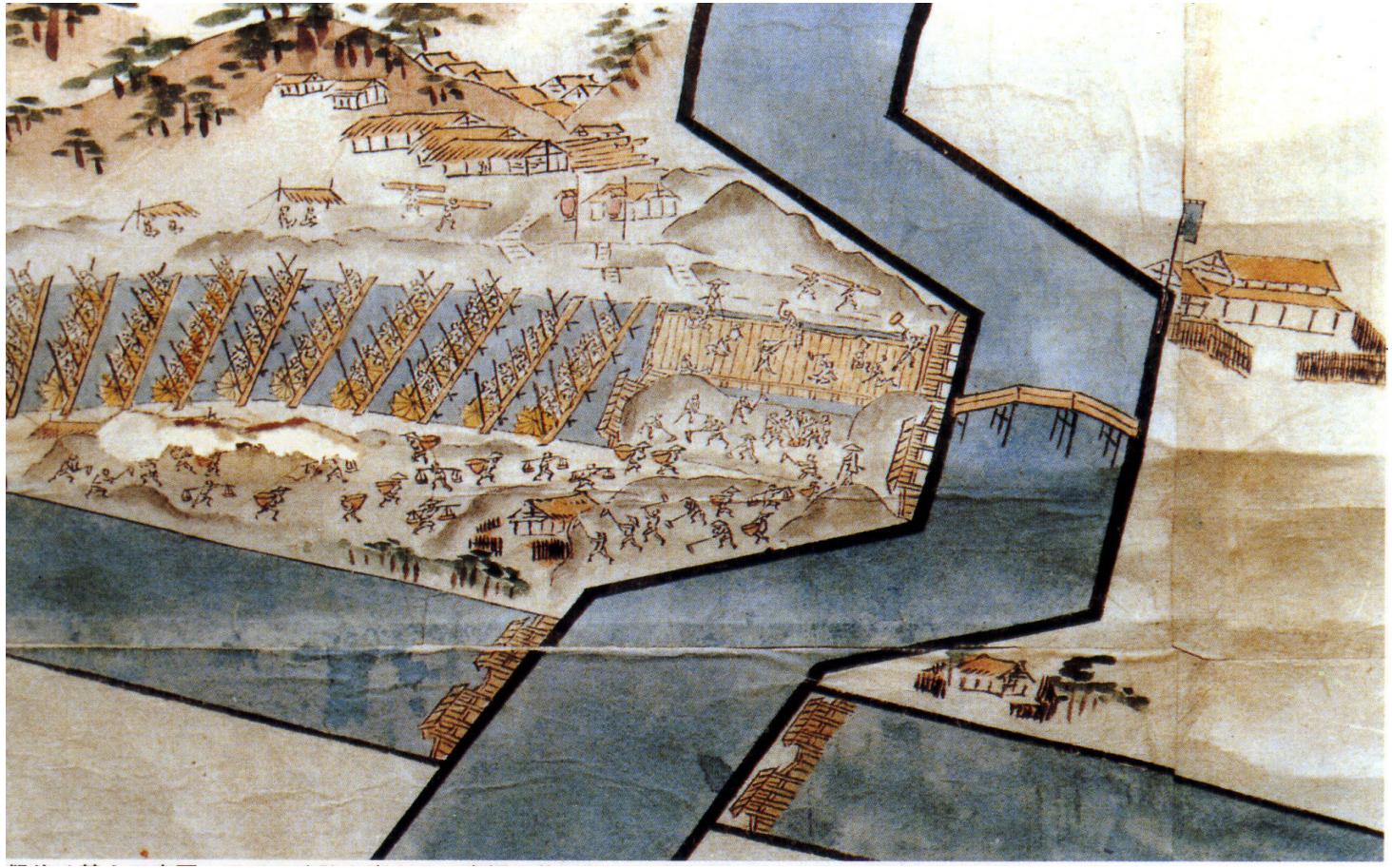
かつぎもっこ

多くの人達の手で
大量の土砂を運ぶために
使われた道具がこれ

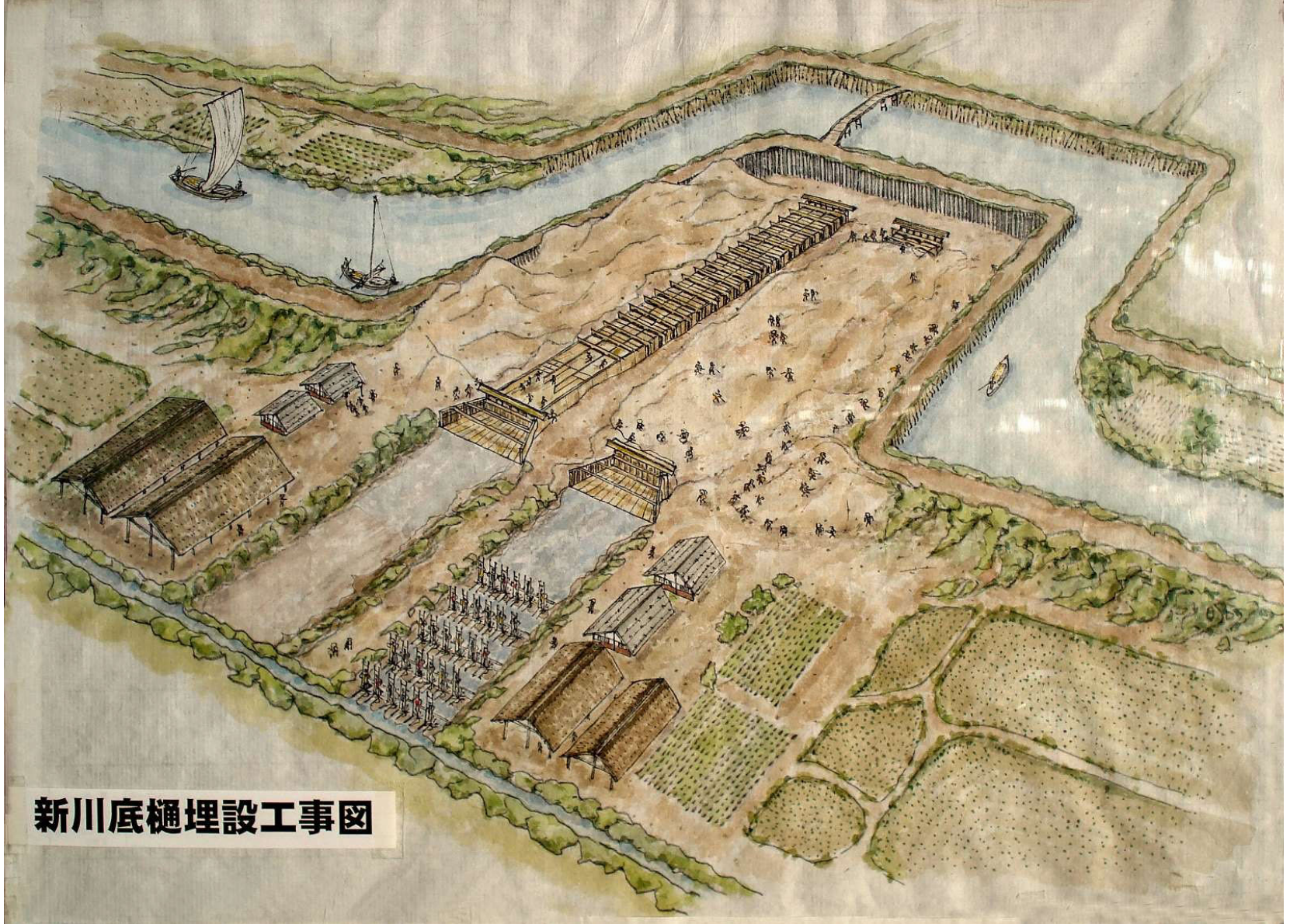
内野には川の上に流れる川がある

西川水路橋

新川の上を西川が流れている

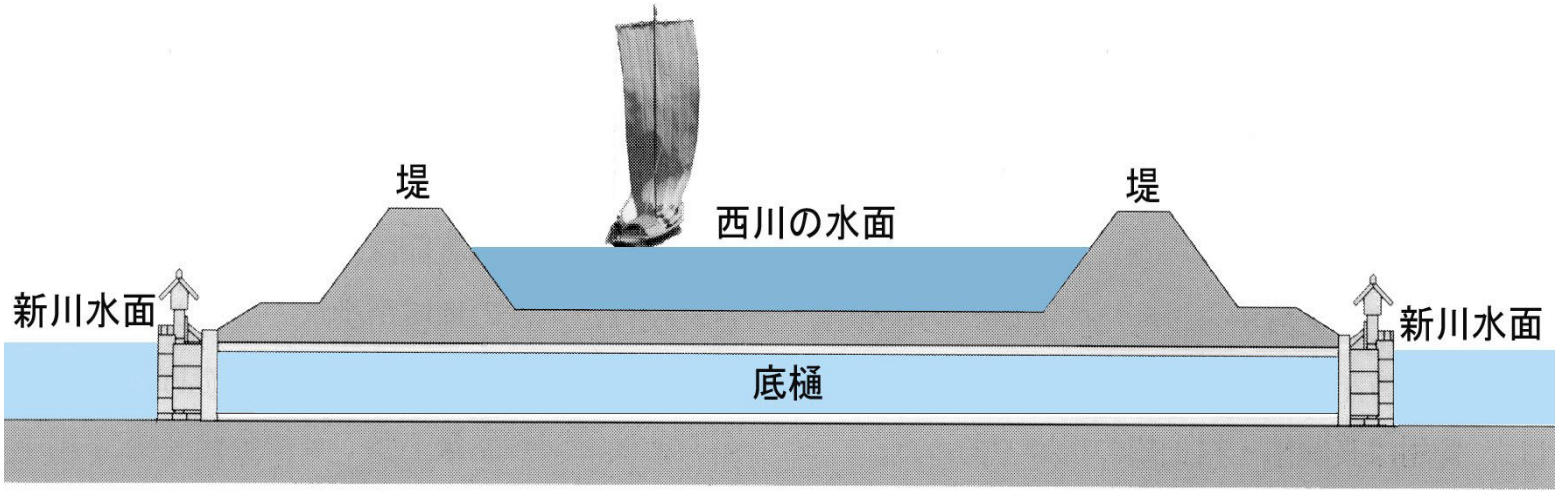


底樋普請絵図



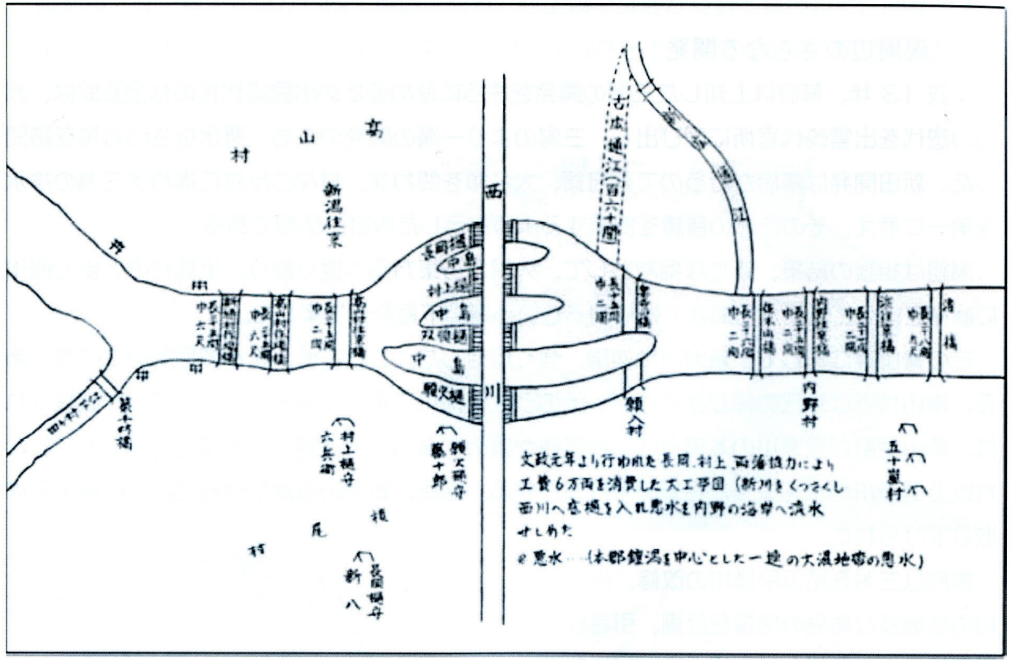
新川底樋埋設工事図

木材で底樋を設置した後、上に土を盛って西川の川底にし
西川の水路を元に戻す。西川の下に排水路（新川）を作り
それを通じて三潟の悪水を日本海に放出する。



立体交差図 『新潟市史より作図』

明治以前の底樋



底樋が完成した後も
水害や地震のため劣化や破損
そのつど補修されてきた
新川拡幅にともない
底樋も伏せ替え増設された

木材で作られた底樋の劣化により排水阻害ができた為県営事業で改修に着手し1913年（大正２）アーチ型レンガ・花崗石造りの底樋９門が完成した。これにより西蒲原の治水が好転し農業の発展を促した。

１８２０年（文政３年）

三潟悪水抜掘割が完成する

現在は「新川」と呼ばれ親しまれいる。

総費用見積もり

長岡領　１８，３７６両（願人が負担）

村上領　３，２９１両（全額藩負担）

合 計　21,667両

人足（延べ）　1，652，700人

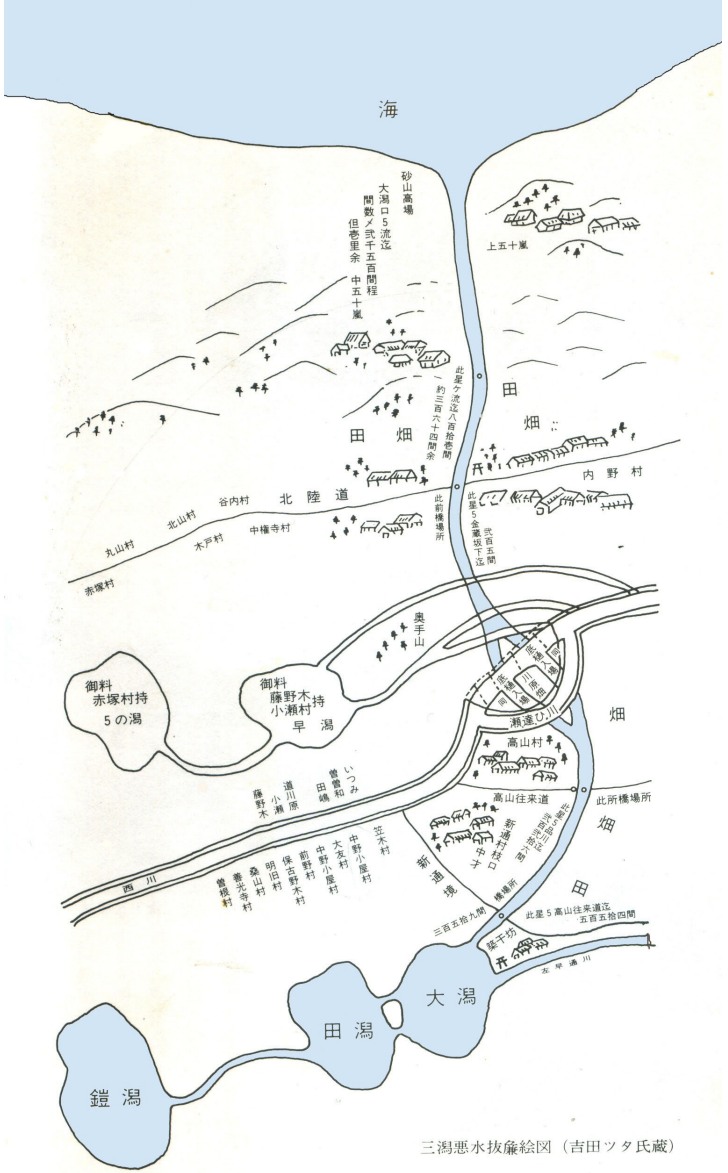
当初見積もりは９０００両であったが

実際には２倍以上かかった。

願人１８人はそれぞれが所有する役録を

売ったり、質入れしたりして

資金を調達した。



三潟悪水抜廉絵図（吉田ツタ氏蔵）

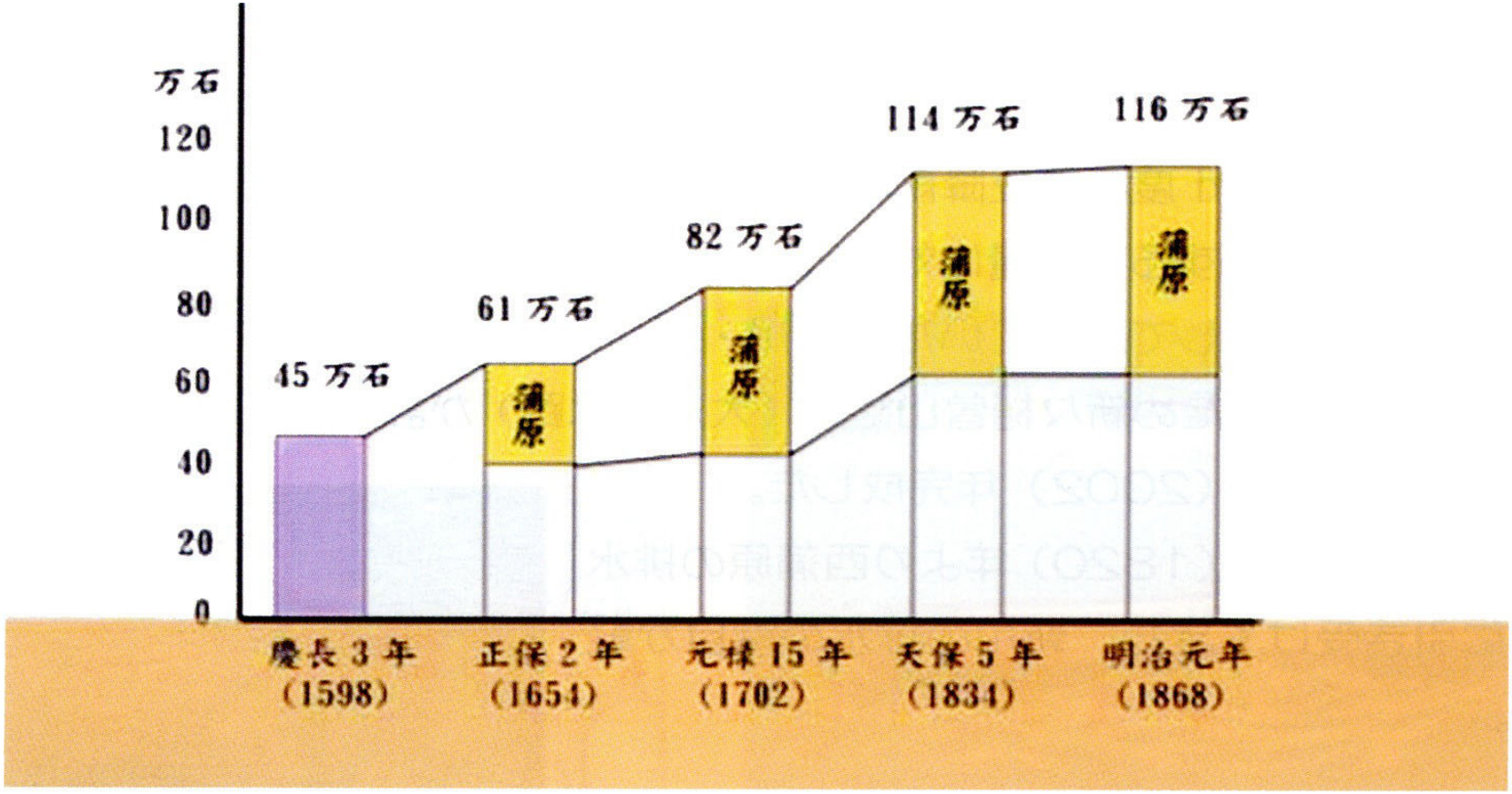
2000 年当時の新川河口付近　出典：『図説 新潟市史』

- 水害で苦しみに喘いでいる農民を代表して
  五郎左衛門は全責任を一身に負う覚悟で
  宿願の大工事を開始した。　（ 1817 年）

- 金蔵坂を掘割、新川を開削し、西川の底に
  木製樋管２門（長岡樋・村上樋）を埋めて
  西川と立体交差させる工事開始（ 1818 年）

- 厳しい難工事を乗り越えて遂に完成（ 1820 年）
  伊藤五郎左衛門　42歳（良寛　62歳）

新川が完成後　米の生産が飛躍的に伸びていく



米生産高の推移

全国有数の生産高を誇る西蒲原の美田

西蒲原のほとんどの悪水を
集めて日本海に放流している
新川が、江戸時代に開削
されたお陰である。

伊藤五郎左衛門

1778（安永7 ）～1839（天保8 ）

- 中野小屋の庄屋　内野新川開削の功労者
- 三潟といわれた鎧潟、田潟、大潟の悪水を日本海に放流した大事業の立役者。
- 18人の願人は多くの借金をした。
- 五郎左衛門も田畑、庄屋屋敷を失う。
- 身銭を切って働いた五郎左衛門は庄屋の権利を質に流し、あげくの果てに干拓地は幕府直轄とさせられ、死後も借財が残った。

伊藤五郎左衛門の功績に対する報いは何？

役録を売っても足りず、家も処分した
伊藤家の旧桜門は、西川の善光寺へ

伊藤五郎左衛門は私財をなげうって困難な大工事を成し遂げ、西蒲原地方に多大な貢献をした。
６２歳で亡くなるが死後も借財が残った。

新川開発創業者供養塔

新川の歴史の背景にあるもの

当時の西蒲原の低湿地帯に住む農民にとって、雨が降る度に
襲ってくる湛水被害と、その後の悪疫から逃れるために
何としても排水路を掘らなければならなかった。

この工事は時の支配者の命により行われたものでは断じてない。
伊藤五郎左衛門を筆頭に志ある庄屋・農民層が主体となって
成し遂げた大工事であった。
工事は成功し西蒲原地帯は豊かな農産地として生まれ変わったが、
多くの犠牲によってなされたことを決して忘れてはならない。
新川にはいわば、水に対する農民たちの不屈の魂が潜んでいる。

完